

サイ・テック 知と技の発信

【337】

埼玉大学・理工学研究の現場

「ソサエティ5.0」

科学技術基本計画でキャッチフレーズとして登場しました。

「ソサエティ5.0」という言葉が聞かれたことがあるでしょうか。現実空間を高度に融合させたシナ「5.0」は、狩猟社会(1)テムにより、経済発展と社会的課題(0)、農耕社会(2.0)、工題の解決を両立する、人間中心の業社会(3.0)、情報社会(4)社会の構築を目指しています。・0)に続く新たな社会を指すも、これまでの情報社会では、人間ので、第5期(2016〜20年度)が情報を解析することで価値が生



しげはら・たかおみ 1960年生。88年3月東京大学大学院修了。理学博士。88年4月東京大学大型計算機センター助手、97年4月埼玉大学工学部講師、その後、同助教授、04年4月埼玉大学情報メディア基盤センター教授を経て、08年4月から現職。現在の専門は数値線形代数、ハイパフォーマンスコンピューティング。

次代を担う数理情報 重原 孝臣 教授

■次世代住宅産業の研究
私はここ20年余の間、「大規模な数学の問題」をスーパーコンピュータなどの高性能計算機を使って解くためのアルゴリズム(計算手順)の設計・開発に関する研究に取り組んできました。日常はもっぱら紙と鉛筆を使った計算とか、計算機の端末に頼りません。ここ3年半余の間、工学部長の大役を仰せつかり、立場上、学部の方には、産業界や社会への応用を念頭において研究を進めていただいて産官金の方々に協力していただいています。ここで重要な鍵になるのが「数理情報」です。

また、膨大なビッグデータを人間の能力を超えたAIが解析し、その結果をロボットなどを通して人間にフィードバックすることで、これまでにはなかった新たな価値が産業界や社会にもたらされることが期待されています。ここで重要な鍵になるのが「数理情報」です。そんな私ではありますが、最近研究室の助教とともに埼玉県の「次世代住宅産業プロジェクト」に関わらせていただきました。これまで無縁な分野でしたが、埼玉県産業振興公社からお声掛けをいただいた。一定の条件を満たしつつ、コストをできるだけ抑えて消費エネルギーや二酸化炭素排出量をできるだけ少なくするための住宅の外皮や設備の組み合わせを半自動で算出する最適化システム」の設計・開発に携わりました。県内を中心とする建設業者、住宅メーカー、建築CADソフトを開発する業者をはじめとする多くの方々のための環境作りに少しでもお役に立ちたいと、お話し版」に立てれば、と考えているところをほぼ完成させるころまで何とか

埼玉経済

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
TEL 048・795・9161 FAX 048・653
keizai@saitama-np.co.jp